

# 息

三年

画数 10  
筆順 ノ 白 自 息

フ ソク  
いき

成り立ち



はなの形をあらわした「自」と、心ぞうの形をあらわした「心」とを組み合わせて作った字です。むかしの人は「いき」は、心ぞうからはなをとおって外に出る」とかんがえていました。それで、「はな」をあらわした「自」と、「心ぞう」をあらわした「心」とを組み合わせて「いき」をあらわしました。

また、「いき」は、「生きもの」が「生き」ているかぎりするものですから、「生きる」といういみにもつかわれます。**【例】**生息。

また、「生き生き」と元気のよいいみから、人の子を「令息」といい、「子ども」のいみにもつかわれます。**【例】**子息。

使い方

▽冬になると、はく息が白く見えます。見ていると、みんな、白い息をはきながら、おしやべりしたり、歩いたりしています。

▽長いこと閉め切った部屋にいと、息苦しくなってくることがあります。これは空気が悪くなってくるからです。時々、部屋の空気を入れかえると、よくなります。

熟語例

▽嘆息(ため息をつくこと。「おとうさんは、『おまえの物忘れのひどいにも、こまったものだ』と、嘆息しました」などというふうには、つかいます。)

▽生息(生きていること。「コアラは、オーストラリアに生息している動物です」などと、つかいます。)

▽消息(もともと「消」は、消えたり、なくなったりするいみ。「息」は、生きていくといういみ。そこで「消息」といえば、生きていくかどうか、といういみだつたのですが、今は、「たより」「手紙」「また」なりゆき」といういみに、つかわれます。)

▽子息(男の子、といういみです。)

# 速

三年

画数 10  
筆順 一 一 申 束 速

フ ソク  
はやい いるる すみやか

成り立ち



「木をたばねる」ことをあらわした「束(たば)」と、道を進むいみの「フ」とを組み合わせて作った字です。

木を一本一本運ぶよりも、木をたばねて一度に運んだ方が「はやい」ということで、「はやい」といういみを使います。**【例】**急速、速記、速報、速達、速答、速攻。

また、「はやさ」といういみに使います。**【例】**速度、時速、風速。

同じように「はやい」と読んでも、「早(1年53)」とはいみがちがうことに気をつけましょう。

朝、早く起きたので、ゆっくりしたくをしました。朝、おそく起きたので、速くしたくをしました。

使い方

▽バレーボールの試合を見ていると、速攻があったりフエイントがあったりして、とても変化にとんでいます。力いっぱい打ったボールの速度は、どれくらいなのでしょう。素早い選手たちの動きを見ていると、よくあんなに速く動けるなあと感じます。

熟語例

▽急速(非常に速いこと。「急速に進歩する」などというふうには、つかいます。)

▽速記(人の言ったことを素早く書き記す技術)

▽速達(「速達郵便」のことで、普通より速く届ける郵便物のこと。)

▽速答(速やかに答えること。よく似た言葉に「即答」というのがあります。これは、聞かれたその場で答えることです。)

▽速攻(速やかに攻めること。)

▽速度(速さの度合い)

▽時速(一時間あたりの速さ。「時速六十キロで走っている車」などというふうには、つかいます。)

▽風速(風が吹く速さ。秒速ではかります。)